



府中国際交流サロン
FUCHU INTERNATIONAL SALON

くろするろ〜ど

ふちゅうこくさいこうりゅう 府中国際交流サロンは、府中に住む
にほんじん がいこくじん 日本人と外国人が、なかよ たす あ 仲良く助け合っ
たの せいかつ ねが かつどう 楽しく生活していくことを願って、活動を
つづ 続けています。

2019/9月号

かいほうし
会報誌

★★★★★crossroad★★★★★crossroad★★★★★



★★★★★crossroad★★★★★crossroad★★★★★

〜サロン月間カレンダー9月〜

「家族で学ぶ防災講習会に参加して」

■文化交流活動

9月13日(金) 午前10時半〜12時

「生け花」15名・参加費500円

場所：サロン第1会議室

*申し込みは12日正午まで事務局へ

9月(毎週水曜日) 午後1時半〜4時

「ハワイアンダンス」定員15名、無料

場所：サロン託児室

*申し込みは事務局まで

★以上の対象は学習者とボランティア

げつようごぜん 月曜午前ボランティア 江澤 順子

6月15日、生活情報支援部会主催による「家族で学ぶ防災講習会」にベトナム出身のチャムさんご夫婦と参加しました。参加者は19名(学習者親子、外国籍府中西高生、外大生、市役所担当者、ボランティア)でした。

ベトナム語、中国語、英語の3つのグループに分かれ、消防署の方から急病や火事の時は119番通報をする事、そして災害時には救助対応は無理という話がありました。

次に、生活情報支援部会より、東京都防災アプリをダウンロードして、いざという時に役立てようと教えて頂きました。防災時に役に立つアプリなので是非、皆さんにも活用していただきたいと思いました。

また、大きな地震の時、下記の内容は大切な情報でした。

- ・テレビやスマホ等の緊急地震速報が流れる
 - ・揺れが収まるまで机の下に身を隠す
 - ・火の始末、ドアや窓を開けて出口の確保
 - ・外にいる時はブロック塀に近づかない等、落下物に注意し、バッグ等で頭を守る
 - ・自分の家から近い小学校か中学校の避難所へ避難する事
 - ・避難所は、外国の人でも誰でも避難でき、そこでは水や食糧がもらえる
- それ以外に学んだこととしては、各自の避難場所を府中市地震ハザードマップ上でチェックして

■勉強会

9月18日(水) 午前10時〜12時

テーマ：「新ボランティアさん、ようこそ！」

〜新・現ボランティア意見交換会&教材紹介〜

場所：サロン第1会議室

対象：ボランティア

■防災訓練

9月・10月の日本語学習会にて

災害発生時に備え、防災訓練を行います。9月・10月の間、各日本語学習会(月・水・金)の都合のよい日を利用して、学習会の時間内で実施いたします。

場所：サロン学習室

対象：学習者・ボランティア



世界の文化

確認しました。災害時には電気、ガス、水道が止まるので非常袋を用意しておく事の説明や非常袋の展示があり、どんな物が必要か確認できて良かったです。

地震の経験がない外国の方は、いざという時の行動の仕方、準備等を学べる良い機会になったと思います。チャムさんご夫婦も非常袋や避難所の事等をとても役に立ったとおっしゃっていました。

今後またこのような講習を開いて沢山の方に参加して頂く必要があると感じると共に、私自身防災について再認識できた講習となりました。生活情報支援部会の方々ありがとうございました。

「おいしかった韓国料理教室」

金曜夜ボランティア 榎本 フミ子

7月6日(土)市民活動センター「プラッツ」にて、30名の参加で行われました。中でも親子、夫婦での参加者がいらして、和気あいの教室でした。

メニューは、ビビンバ、キュウリキムチ、野菜プチムゲ(チヂミ)、講師は韓国の南素羅さん。最初に玉ネギや小ネギ、ニンジンなど違う料理に同じ物を使うので、その分け方、そして時間ごとの作業手順の説明があり、いよいよ各班に分かれ作業開始。

今、手順を聞いたにもかかわらず主婦の早合点で、違うメニューの野菜を同時に切ってしまう失敗もありドキッとしましたが、笑顔、笑顔で乗り切りました。

また、キュウリキムチは、どの家庭でも簡単に手に入る調味料に変えて工夫してくれたことや、野菜プチムゲは、北の方ではチヂミと呼ぶそうで、日本人がいつも食べていたチヂミと違い野菜(溶いた小麦粉がうっすらと付いている)を両面焼くような厚みのないものだと知った事が良かったです。

試食時は「ワーいつも作るのと違う、おいしい」「今日の夕食ができた」「楽しかった、また参加したい」と口々に話しみんな満足の表情でした。

南素羅さんの「赤・白・緑・黄・黒の5つの色を大事にしている」との言葉が印象に残りました。

スタッフの皆様、お世話様でした。

「外国人の防災講習会に参加して」

何 文武 (中国)

グループの中にボランティアの先生が2人と、同じ中国から来た学習者も一緒だったので、リラックスして話し合うことが出来ました。実際に役に立つ内容を学ぶことが出来ました。

例えば地震が起きた時の避難の仕方、避難所の確認の方法、そこで非常食を受け取ることが出来ること、緊急避難警報について、家族との連絡の取り方、日頃必要な備蓄品や、被災後に役立つ品々についても具体的に知りました。私は5月に中国から来ましたから防災についての詳しい話は聞いた事はありませんでした。中国でも地震は起きますが私の住んでいた上海では大きい地震は起きませんでした。

この講習会に参加して思ったことは地震や台風の多い日本では防災の知識が絶対に必要だということです。



「韓国」の家庭料理の報告

ダン レバオ チャム(ベトナム)

文化交流部では、7月6日に、ルシーニュ6F・ブ
ラツ料理室で料理教室をおこないました。参加者
は30名(一般20名・サロン内10名)と他スタッフ6名
でした。そして6つのグループに分かれました。私
は6番グループでした。



韓国料理教室
の講師はナムさ
んでした。料理
教室の献立はビ
ビンバ(主食)
とチヂミとキュ
ウリキムチ
(副菜)でした。
私はこの教室

は初めてだったので、ちょっと緊張しました。キュ
ウリキムチは、私のグループはちょっと間違えまし
た、ニラだけの代わりに長ねぎも混ぜました。だから、
皆で長ねぎを除きました。韓国の料理は簡単で
はありませんが、皆は韓国の料理をうまく作って
いました。私は、3品の中でビビンバが一番美味し
かったです。

今回は料理を通じてのみの国際交流でしたが、私
はたくさんのことを勉強して、いろいろな人に会
いました。だから、この料理教室を企画してくれた
府中国際交流サロンにとっても感謝しています。次回
はもっと人と話す時間があることを願っています。



「最終の学習」

金曜夜ボランティア 赤木 喜代恵

七月五日、トゥアンさんが五ヶ月ぶり、教室に見
えた。「帰国するので、先生にお別れに来ました」と
の事。サロンの委員の方から、「皆さんに帰国の挨拶
をなさって下さい」と依頼された。予期していな
かったので、とまどっていた。

私は、挨拶文、母国語のベトナム語で作りに、それ
を日本語に翻訳することを提案した。トゥアンさん
は早速、作文に取りかかり日本語の挨拶文が出来上
がり、私は驚いた。

会話とマイクを使つての話し方の違いを指摘し
て、説明、訂正した。これがトゥアンさんとの最後の
学習となった。

昨年、九月から半年近く、会話のみ、学習したト
ウアンさんは、平成に来日、令和にご帰国なさった。

トゥアンさんの将来に大きな期待をよせている
私は、「お帰りになられてからも日本語の学習を続
けて下さいね」とお願いして、お別れした。

「ベトナムにかえります。ありがとうございました。」

グエン ヌー トゥアン(ベトナム)

こんばんは、ベトナムのトゥアンです。とうしば
のけんしゅうがおわりましたので、こん月ベトナム
にかえります。

サロンでにほんごのがくしゅうしました。たのし
かったです。みなさん、しんせつでした。たくさん
にほんごのべんきょうをしました。また、にほんへ
きたいとおもいます。

みなさん、ベトナムへいらっしゃいましたら、わ
たくしにれんらくください。ごあんないします。

ありがとうございました。

編集部注: ハノイの東芝から府中の東芝に研修
に来ていたトゥアンさんは、金曜夜の学習会で赤木さん
と日本語を学んでいました。この原稿は、研修が
終了し7月下旬に帰国するにあたり、7月5日の
最後の学習会で挨拶したものです。

わたし
私のふるさと ~15~

わたし ふるさと ながさき
「私の故郷・長崎」

きんようよる はしだ ゆたか
金曜夜ボランティア 橋田 寛

「チャンコン、チャンコン、どーい、どーい」通りの真ん中を独特の形をした「山車」が進んでいきます。さだまさしの歌にある『精霊流し』の様子です。「山車」は「精霊船」と呼び、お盆を迎えていた魂を西方浄土に送る為の船です。先頭には円錐を少し斜めにカットしたような部分があり、中に明かりが灯されています。(前照灯のような感じ) 本体には家紋入りの灯籠が飾られ、中には「お供え物」が入っています。帆には「西方丸」と書かれています。そうです、これはお盆の「送り火」の儀式です。初盆(関東では新盆というようですが)の家では、精霊船を作り、家族や仲間が船を担いで港へと向かい、流します。(海に流すわけにはいきませんので、実際には砂利運搬船のような船に投棄します。)

江戸時代に唯一開かれていた港であり、大陸(中国・朝鮮)にも近いので、多文化の影響が普通に共生されている町です。お祭りにもそれが色濃く残っており、精霊流しでは爆竹に火をつけて派手に騒ぐし、神社の祭り「おくんち」(10月初)には「龍踊」が出てきます。これらは中国由来でしょうか？中国をルーツとする方も多く、一文字性(宋・李など)の子がクラスに数人いて、とても裕福な感じであったことを覚えています。

カトリックの教会が多い=信者も多い。観光地として有名な教会だけではなく、周辺の町村にもこじんまりした教会があり、これはきっと隠れキリシタンの歴史に由来するのではないのでしょうか？信者の結婚式では、花嫁がバージンロードを歩き、誓いの言葉を述べるような儀式だけではなく、聖書・福音書を引用した祈りと賛美歌を捧げます。

世界遺産もあります。「軍艦島」実名は端島ですが、炭鉱の坑道(坑口)があり、多くの労働者を生活させるためにコンクリート製のビル・アパートを密集させて作ったのでこの異様な形の島になり、別名の方が有名になってしまったようです。高校の同級生が

いたので訪問したことがあります、狭いけどごく活気のある町であったの覚えています。

被爆都市でもあります。造船は基幹産業であり、戦艦武蔵が建造された実績があります。それが故、原子爆弾投下の目標とされ、2番目の被爆地となった。原爆資料館の展示は設立当初よりやわらかくなったと聞いていますが、私は小学校のころ初期の強烈なものを見た記憶があります。考えてみれば、幼少期には兄たちの後を追いながら、焼け野原の中でくず鉄拾いをし、溶けたガラスの塊などを素手で触っていましたが、放射能は問題なかったのかな？と今更考えても無駄ですね。

色々歴史的な事を紹介してきましたが、生活に密着した産業は漁業です。海に囲まれた地形は多くの近海漁場に恵まれ、東シナ海に臨む大漁港がありますので、新鮮な海の幸が豊富です。なので、お祭り好きな方は、お盆かおくんち(10月)観光の方はいつでもOKですが、食は旬の魚を外さない。お土産は蒲鉾とカステラで如何でしょうか？



「日本語教授法研修会に参加して」

上條 明子

2019年5月14日～7月16日迄、毎週火曜日の午後2時から4時まで、全10回の「日本語教授法研修会・初級Ⅰ」が行われました。東京外国語大学・オープンアカデミー講師の山田しげみ先生を講師にお迎えして教えて頂くこととなりました。

現役ボランティアの方も含めて全24名でスタート致しました。

皆さん様々な動機と想いで、新たな一歩を踏み出された方々なので、表情はイキイキしておられました。私も随分前から定年退職後のライフワークとして活動したいと思っていたので火曜日の午後はすべて半休をとって参加させて頂きました。

『外国人学習者に自分の母語である日本語を外国語として教える』ということは母語話者として、母語(日本語)を改めて見直し、再認識する貴重な時間でした。

まず、初回にグループ分けをしたのですが、教室の四隅に以下↓の四つの動機ごとに分かれました。

- ① 外国人との国際交流に興味がある。
- ② 日本語に興味がある。
- ③ 外国人に日本語を教えた経験がある。
- ④ その他(例、何か新しいことがしてみたい)。

①から④のひとりずつが混ざり合い、そこに現役のボランティアの方も加わって、ひとつのグループが構成されました。全部で5グループで、最後までこのグループで授業が進められました。

『みんなの日本語・初級Ⅰ』をテキストにして授業が進められ、文法から、丁寧体、普通体、動詞、疑問詞、助詞、数詞、形容詞、等々。授業が進むにつれて、学習者とのコミュニケーション能力がとても大切であること、お互いに学び合う姿勢が大切だと感じました。

私が、この教授法を学んでいると聞いた友人から、こんな励ましのメールが来たのでご紹介させていただきます。(彼は仕事を現役引退後、日本語教師として海外で教えた経験を持ち、現在は仙台で日本語ボランティアをしている)

「日本語教師に必要なのは情熱です。テクニックは実践の中から学んでいくことができます。それに、学生によって手法を変えることで上達度が異なることがあります、王道はないと思っています。例えば、『好きくない』という言葉に接した時、『好きじゃ(では)ない』と文法解説付きで伝えるのか、『ああ好きじゃないのですね』と間接的に“気づき”に訴えかけるのか、『好きくない?』とオウム返しするのか、説明にあたって母国語を交えて解説するのか、相手の性格、日本語理解度によって対応が異なると思います。頑張ってください!! 応援しています。」

10回の授業が全て終わった後に、もう一度このメールを読んでみて、本当にそうだなあ～と思えました。王道はないんだ、ということ。学習者とのコミュニケーションの中で未熟ながらも、情熱を持って、学習者が日本社会で自己表現できるようにサポートし、日本の文化や習慣や考え方を理解して、日本社会で楽しく暮らしていけるお手伝いが出来ればいいなあと思えました。

私には、すぐには活動出来ませんが、活動を始めるその日の為に準備期間として色々学びたいと思えます。そして来年1月21日から始まる『日本語教授法研修・初級Ⅱ』の受講も楽しみにしています。最後に山田先生、御一緒させて頂きました受講生の皆様、大変楽しかったです。

ありがとうございました。



山田先生から修了証を受け取る上條さん

「日本語教授法研修を受けて」

安藤 健一

4月、某外国語(あまりにも進歩しないので何語ですとときっぱり言えないのが何とも悲しい!)を共に苦闘している知人からボランティアとして日本語を教えるための研修があるので受けませんかとの誘いが有った。

今年、古稀を迎えるというのに、いたずらに歳を取るだけで何も世の中のためにならない生活をしていていいものだろうかと柄にもないことを思った心の隙間に飛び込んだ誘いに、ついフラフラと「ハイ」と返事をしてしまった。そんな主体性欠如の状況で日本語研修を始めたものですから、初日から参加する皆さんのボランティア意識の高さに圧倒され、「これは困ったな!」と思ったけれど、参加者とサポートしている方々の熱意に引きずられながら、やっとのことで研修を終えることが出来た。

今回、日本語を教えるという視点から日本語を学んでみて、こんな複雑な言葉をいつの間にか覚え、毎日何気なく使っているということに気付かされた。そしてこの難しい日本語を育った環境の全く異なる外国の方々に果たして満足していくように教えられるだろうかという不安は始める前より強くなった。

そして、不安感で思考停止状態に陥っている時、今回の研修に誘った知人から研修の感想を書きませんかと言われ、これまたフラフラと「ハイ」と答えてしまった。でもよくよく考えると研修落ちこぼれに近い私に研修内容についてまともなことが書ける筈もなく、さらに手本となるような由緒正しい日本語はなおのこと書けない。それで、こんな内容になってしまった。ゴメンナサイ!

9月からボランティアデビューするわけですが、上手に日本語は



安藤さん(右)と小林さん 教案を発表する

教えられなくても、一緒に楽しい時間を過ごして、それで外国の方が少しでも日本が好きになり、併せて日本語の上達の手助けになれば良いなと思っています。



わたしの☆つづがやき

「あのね~♡」「な~に♡」

水曜ボランティア 末田 圭治

先日、並木道で、木のそばを歩く子どもの問いかけに、前を歩く母親が振り返りながら答えていた。暑くてたまらない日中だったが、その瞬間は、暑さを忘れて、何とも言えない明るさと温もりを感じさせてくれた。清涼な風が吹いたような気もした。一瞬ですれ違ったので、子どもがそのあと、何を聴いたのか聞こえなかったが、「な~に♡」と言って温かく受け止めてくれるだけで、子どもはうれしくなっていることが想像できた。

こう感じたのは、映画『楡山節考』を見たことも影響しているかも知れない。母と別れる息子が言った「おっかあ、雪が降って運がいいなあ。山へ行く日に。」を、母親が聞いて頷くシーンが印象的だった。

「聞く」の語源の一つは「気来」。すなわち相手の「気持ち」が自分に「来る」という意味があるようだ。言葉を理解するだけではなく、相手の心を受け止める。この「聞く」ということだけで相手の悩みや不安の多くを解消できるのではないか。

学習者とボランティア、ボランティア同士の会話においても「聞く」という相手を思いやり相手の心を受け止めていく、そういう作業を繰り返して、異なる人間同士の交流を深め、自身の成長を図りたい。そう思わせてくれた何気ない母と子の会話だった。

みな がくしゅうしゃしょうかい
皆さんよろしく◇学習者紹介

レマーン イフラさん (パキスタン)



こくせき にほん
「国籍は日本です」

父親がパキスタン人、母親が日本人のイフラさんは、日本で生まれ国籍は日本です。10歳の時にパキスタンに行き、祖母と暮らし、結婚し、22歳で日本に帰ってきました。ですから、一種の帰国子女で、今日本語の勉強をサロンでしています。

2015年日本に帰ってきて、翌年からサロンに来ましたが、お子さんが産まれるためお休みして3年ぶりに勉強にきました。息子さんも2歳半になり、保育園に預けてご両親のやっている会社で事務の仕事をしています。

小学校4年生まで日本に居たのですが、漢字もすっかり忘れてしまっていますが、日本語の会話は全く不自由していません。現在N2に挑戦していますが、次はN1と漢字検定に挑戦しようとしている勉強家です。

パキスタンのカラチは海もありますが、年間の半分位が気温40度あり、雨も年に数回降るだけです。暑く、日本の夏でも涼しく感じています。

日本の食べ物はお寿司、おさしみ、納豆が大好きな国籍どおりの日本人ですが、宗教上豚肉は食べませんし、鶏肉もハラルのものを食べているそうです。

宗教のため、息子さんもイフラさんと同じように、子供の時から成人するまでパキスタンで教育を受けさせようかと考えているそうです。(堤林)

ひろば
みんなの広場

にほんごがくしゅうへやか
「日本語学習の部屋が変わります」

これまで日本語を学習していたサロン3階の部屋が、10月から工事のため、しばらくの間使えなくなります。10月1日(火)から、日本語学習の部屋は、サロン2階の会議室に変わります。間違えのないように注意してください。詳しいことは、サロン事務局で聞いてください。(編集部)



かいさいし
「バーベキュー開催のお知らせ」

今年もバーベキューを例年と同じ多摩川河川敷で10月19日(土)に行うことが決まりました。

例年と違うのは、企画部が主催で行うのではなく、実行準備部隊(有志連合)が主体となり、参加者全員がお手伝いをするという条件で行われます。

多くの皆様のご協力がないと実行されませんので、ボランティア、学習者の方々と実行準備部隊に参加出来るかたは、サロンの事務局に申し込んでください。

お手伝いの申し込みが少ない場合、今年度のバーベキューは見送られることとなります。多くの方の参加をお待ちしています。(編集部)



こくさい かい
～国際ふれあい会～
「わたしのふるさとを語る」

しみん ボランティアを交えて、がくしゅうしゃが自分のふるさとの魅力を紹介する～国際ふれあい会～「わたしのふるさとを語る」は、今年で7回目を数えます。今年は、ロシアと中国の学習者がそれぞれ、ふるさとの話を語ってくださいます。

はっぴようしゃ
発表者：デニス イルシェンコフさん（ロシア）
おう うんえい
王 云齋さん（中国）

にちじ がついつか じ
日時：10月5日（土）午後2時～4時

うけつけかいし じ
受付開始：午後1時半

ばしょ だい かいぎしつ かい
場所：「プラッツ」第5会議室（ルシーニュ6階）

さんかひ えん
参加費：200円

ていいん めい しみん がくしゅうしゃ
定員40名：（市民・学習者・ボランティア）

★参加される方は、サロン事務局か企画部に
お問い合わせください。



わたし かんこくりょうりきょうしつ いただきます のこ
私も韓国料理教室でおいしく頂きました。残さ
ずに。2016年度に廃棄された日本の食品は約2759万
トンで、まだ、食べられるものは、約643万トン。

しよくりようじきゅうりつ ひく くにゅう たよ にほん が食べられる
食料自給率が低く輸入に頼る日本が食べられる
のに大量に廃棄している。もったいないなあ。幕の
うちべんどう ちきゅう しゅうぶん ゆそう たしやうひ
内弁当は、地球4周分の輸送エネルギーを消費して
いるとか。食べ残すのに食材を注文して買い走りす
るなんて、料理教室では考えられない。

きちやう しよくじ てまりよう のこ
貴重な食事です。適量で残さずに頂きます。

ごちそうさまでした。

すえだ
（末田）

へん しゅう へんしゅうちやう わ だ やすひろ
【編集】 編集長：和田泰弘

かいほうぶかい つつみばやし わ だ いわき すえだ
会報部会：堤林、和田、岩城、末田

じむきよく でん わ
【事務局】 電話：042-352-4178

E-mail：mail@fuchukokusai.gr.jp

サロンのホームページ

<http://www.fuchukokusai.gr.jp>